



經典餘師 小學之部 二

□ 11
2047
39



門 〇 〇 11
2047
39

讀法

小學卷之三

敬身第三

孔子曰君子無不敬也敬身為大身也者親之枝也敢不敬與不能不敬是親傷其親是傷其本枝從而亾也

聖模と仰ぐ賢載と景ひ此篇と述

小學卷之三

敬身第三

此君子ハ身と敬畏と以て重なり此段敬の事と明ふ記す

孔子曰君子無不敬也敬身為大

身也者親之枝也敢不敬與不能

敬其身是傷其親傷其親是傷其

本傷其本枝從而亾

敬畏の心ふくむを以て君子とあり欲心とあり得ざるを以て小人とありやめらるるをかり凡そ吾に及ぶて吾身無事なることを得る君子ハ身と敬畏と一大事と云ふも五身ハ親の枝葉かり枝と云ふ根本傷る根本そとなく枝ハ從而わらざる五身と敬畏しと云ふは親と傷やぶる仰聖模景賢

て以て蒙士に訓

丹書に曰く敬怠
に勝者吉怠敬
に勝者凶
欲義に勝者凶

曲禮に曰く敬
不敬母儼
思心若く辭
安定小を民と
安んずる哉

敖不可長
不敬不可
不志不可
不可樂極
不可不

賢者に狎て而
之と敬畏て而
之と愛愛
知憎て而して其
善と知積て而
能散安に安
而して能遷る

範述此篇以訓蒙士 右聖人の御詞ありと以て朱子が

て此篇を述べて蒙士に訓するなり。記すべし。聖賢の禮義模範と仰景著し。たすなり。

丹書曰敬勝怠者吉怠勝敬者滅義

勝欲者從欲勝義者凶 丹書大公望の傳。黃帝の道と載し。

書なり。すべて敬の心よく怠れ氣勝とく大小に滅亡にせよとにせしめり。敬を勝て怠がければ諸事吉なり。又

義理の心あつて欲心に勝ると事物順從にして滞留せず。欲心勝て義理を失ふと萬事凶の事出さるべし。

○曲禮曰毋不敬儼若思安定辭安

民哉 曲禮の詞なり。第一に主し。重んずる敬の一字を儼。萬禮を敬畏しつなり。起り人の容るにたす。

儼あると胸中に思慮する有る如かき。口ふる事輕薄にあるべし。一言すも重んず定むればおれど安らるに

○敖不可長

欲不可從志不可滿樂不可極 人とのあま

と傲てさゆる所とさすられぬ。ふ增長して徳とす。義理に限りぬ酒色欲に限ず何あて心從恣ならぬ。義理

とす。志思と十分は満ちた。禍災とす。樂と極つたは是非に後悔の出来たり。皆是陰陽表裏して利と害とす。道一。無之と自然の。

○賢者

狎而敬之畏而愛之愛而知其惡憎

而知其善積而能散安安而能遷 賢者

る人の狎くさ中にも恭敬の心とす。れさる。又畏れけりて疎遠かりや。中にも愛とす。やうなり。

寵愛する中にもその人の惡と知。又憎中にもその善と知。財寶と積たぐも能散り。善と知。財寶と積たぐも能散り。善と知。

安樂の場に安坐して拘泥する心と
義理と重し心と遷して怠惰なり
臨財母

苟得臨難母苟免狼母求勝分母求

多疑事母質直而勿有
財寶の場所に臨て義

苟且も得へくば一大事とみても道なき

身と退きやり決してその場と免かしてその道なき狼て

人に勝んぞと思ふべし物と分てれば方へ多とせりめざる

疑惑さことの闕とてはけに遂質とせざるべし何事と

直當みて我有と
孔子曰非禮勿視非

禮勿聽非禮勿言非禮勿動
聖人の偏に

の道に禮義と守る第一とて禮とは偏倚なく節に中と

やり目に視且に聽口に言身に動の四に就て非禮かしく

是に觸しやれとて四の中みても視と聽とは輕く言

に發するく一身の舉動とは重かり去れとて四は非禮の

場所へ立よとせよとて致さるく非禮のよに觸

しよとも不觸にせりく不觸といふも觸にひくはるく

と深考察べし只ひくは非禮に心を留るべし
出

言動に非禮のなきは是を仁心とせざるべし
門如見大賓使民如承大祭已所不

欲勿施於人
身と敬慎りれり起居舉動とて

の心意は常に大賓客と遊る禮義のよき容の正

く輕薄やとせざるべし又人民を治り又人民を使と

は尤も重慎敬べたて神事大祭禮
居處
恭執事敬與人忠雖之夷狄不可棄

也
常に身を恭し場所居べし敬畏で諸事と執

言忠信行篤敬雖

夷狄之國之邦

棄可く不也

居處恭事

孔子の曰く非禮
視勿れ非禮聽
勿れ非禮言
勿れ非禮動
勿れ

門と出て大賓と
見如く民と使大
祭に承如已れ
欲せ不所ろ人に
施す勿れ於

居處恭事
執て敬人與忠
夷狄に之雖
棄可く不也

雖行り言忠信不篤敬
不篤敬言不忠信
雖州里行乎哉

雖州里行乎哉
忠と信と篤と敬との
言はるるなり。篤と信と敬との
言はるるなり。今人たるの言は忠信不
篤敬の言はるるなり。雖州里の言はるるなり。志ざり

君子九思有視
明と思ひ聴と思ひ
思ひ貌と思ひ温と
思ひ言と思ひ心と
思ひ事と思ひ敬と
思ひ疑と思ひ問と
思ひ念と思ひ難と
思ひ得と思ひ見と
義と思ひ

君子九思有視
○君子有九
思視思明聽思聰色思温貌思恭言
思忠事思敬疑思問念思難見得思
義

君子九思有視
明と思ひ聴と思ひ
思ひ貌と思ひ温と
思ひ言と思ひ心と
思ひ事と思ひ敬と
思ひ疑と思ひ問と
思ひ念と思ひ難と
思ひ得と思ひ見と
義と思ひ

君子九思有視
○君子有九
思視思明聽思聰色思温貌思恭言
思忠事思敬疑思問念思難見得思
義

君子九思有視
明と思ひ聴と思ひ
思ひ貌と思ひ温と
思ひ言と思ひ心と
思ひ事と思ひ敬と
思ひ疑と思ひ問と
思ひ念と思ひ難と
思ひ得と思ひ見と
義と思ひ

君子九思有視
○君子有九
思視思明聽思聰色思温貌思恭言
思忠事思敬疑思問念思難見得思
義

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

曾子曰。君子
道に貴む所つ
者二。容貌と動
して斯に暴慢と
遠ざ。顔色と正
くして斯に信に
近づく。辭氣と
出して斯に鄙
倍に遠ざらる

善行と謂

樂記に曰く君子
奸聲亂色聰明に
留り不淫樂慝禮
心術に接へ不惰
慢邪辟之氣身
體に設け不耳目
鼻口心知百體と
して皆順正に録
て以て其義を行
ふ使於

孔子曰く君子
食飽と求る
無居安と求る
無事と敏て

の自由して人と侵し侮慢しやう又好で狎く
しつるをさうり。かく身と修て言とたぐはるを
るふと行の善
しつるをさうり ○樂記曰君子奸聲亂色

不留聰明淫樂慝禮不接心術惰慢
邪辟之氣不設於身體使耳目鼻口

心知百體皆録順正以行其義
君子の
徳ハ別

義のふらさず耳聰して正く能きるるの
の聲にまらざ目たしく明に視るの淫亂なる音
樂又ハ慝禮儀に接ざるなり元ハ惰慢に邪辟し
をこが身體に設るを依て常々耳目鼻口心へつ
やう正さふ順従して行状はらう ○孔子曰
て義理にうまらるるをさうり

君子食無求飽居無求安敏於事而

慎於言就有道而正焉可謂好學也

君子の志意をれして學問にあつるの食物居
宅のしつに求るるを美味珍物に飽すは
家造奇麗ふ安逸を心とせらるる事
に敏すは慎と説と重し常に道有賢者
に就きてはて ○管敬仲曰畏威如疾民

之上也從懷如流民之下也見懷思

威民之中也
齊の賢人管敬仲の語なり今
時公儀の法度刑罰を畏て心に

民の上也懷に
從と流の如
民之下也懷と
見て威と思
民之中也
流て我すは民の下なり又心に懷欲とすは
又法度刑罰の威嚴を思て見ふ察てすは
民の中なりとて
義理にうまらるる

母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上
母之將也堂之上

將入

將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶
將入戶視必下入戶

必揚戶外有一履言聞則入言不聞

則不入 城ふくまらず高所へ登りて指示さす

○將入戶視必下入戶 内談等の遠慮

有後入者闔而勿遂毋踐履毋踏席

振衣趨隅必慎唯諾 戸口の入り目づく

○禮記曰君子之容舒遲見所尊者

齊邀足容重手容恭目容端口容止

聲容靜頭容直氣容肅立容德色容

莊 君子の急遽かきその容の舒遲

足の歩容ハ重き手の手のすくハ恭

口の容ハ止聲の容ハ靜に頭の容ハ直

氣の容ハ肅

立容德色容

莊

君子の急遽かきその容の舒遲

足の歩容ハ重き手の手のすくハ恭

口の容ハ止聲の容ハ靜に頭の容ハ直

氣の容ハ肅

立容德色容

履と踐く母れ
席と踏く母れ
衣と搯て開く
必す唯諾
と慎む

禮記に曰く君子
之容の舒遲
所の都と見
邀す足の容ハ重
く手の容ハ恭
く目口容ハ端
口の容ハ止聲
容ハ靜に頭の容
ハ直氣の容ハ

其宗廟朝廷便便言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

者其在宗廟朝廷便便言唯謹爾朝

與下大夫言侃侃如也與上大夫言

問問如也聖人鄉黨に居るは御容つゝに

問問如也恂恂如篤實のこころをたゞす不能言

問問如也魯國宗祖の祭を宗廟

問問如也出入る事になつたり

問問如也明自にあるは場所から

問問如也正しく侃侃抑あり

問問如也其非義とたり諫

問問如也孔子食て語

問問如也不寝て語不

問問如也士相見禮に曰

問問如也君與言曰臣と

問問如也人言言事君與老者言言使弟子與

問問如也幼者言言孝弟于父兄與衆言言忠

問問如也信慈祥與居官者言言忠信

問問如也論語曰席不正不坐

問問如也子見齊衰者雖

問問如也見之雖

其宗廟朝廷便便言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

言唯謹爾朝

者其在宗廟朝廷便便言唯謹爾朝

與下大夫言侃侃如也與上大夫言

問問如也聖人鄉黨に居るは御容つゝに

問問如也恂恂如篤實のこころをたゞす不能言

問問如也魯國宗祖の祭を宗廟

問問如也出入る事になつたり

問問如也明自にあるは場所から

問問如也正しく侃侃抑あり

問問如也其非義とたり諫

問問如也孔子食て語

問問如也不寝て語不

問問如也士相見禮に曰

問問如也君與言曰臣と

問問如也人言言事君與老者言言使弟子與

問問如也幼者言言孝弟于父兄與衆言言忠

問問如也信慈祥與居官者言言忠信

問問如也論語曰席不正不坐

問問如也子見齊衰者雖

問問如也見之雖

必變見見者 警者與見見者 雖雖必必以以貌貌

凶服凶服者者之之式式負版負版者者之之式式

禮記禮記曰曰若疾風若疾風迅雷迅雷甚甚雨雨有有則則必必變變夜夜雖雖必必興興衣衣服服冠冠而而坐坐

論語論語曰曰寢寢而而不不居居於於容容也也

子子之之燕居燕居申申如如也也夫夫夫夫如如也也

曲禮曲禮曰曰並並坐坐不不橫橫肱肱授授坐坐不不立立

國國入入於於馳馳不不里里入入於於必必有有式式

狎狎必必變變見見見見者者與與警警者者雖雖褻褻必必以以貌貌

聖人聖人之之齊齊衰衰者者若若之之多多狎狎者者之之中中少少必必容容也也正正其其顔顔色色之之變變也也見見見見者者之之貴貴人人之之警警者者等等以以其其貴貴人人之之元元氣氣之之敬敬也也警警者者之之貌貌也也容容貌貌不不具具也也

○凶服者式之式負版者

輕輕也也負負版版者者之之式式禮禮記記曰曰若若疾風若疾風迅雷迅雷甚甚雨雨有有則則必必變變夜夜雖雖必必興興衣衣服服冠冠而而坐坐

甚雨則必變雖夜必興衣服冠而坐

天地天地之之萬民萬民之之父母父母也也疾疾迅迅風風吹吹雷雷電電之之甚甚雨雨有有則則必必變變夜夜雖雖必必興興衣衣服服冠冠而而坐坐

正正其其顔顔色色之之變變也也見見見見者者之之貴貴人人之之警警者者等等以以其其貴貴人人之之元元氣氣之之敬敬也也警警者者之之貌貌也也

○論語曰寢而而不不居居於於容容也也

○子之子之燕居燕居申申如如也也夫夫夫夫如如也也

○曲禮曰並坐並坐不不橫橫肱肱授授坐坐不不立立

○入國不馳入里必式

少儀に曰く。虚（虚）如（如）執（執）盈（盈）入（入）

里に賢人あり。○少儀曰。執虚如執盈。入

虚如有。人。物の虚を器と手に執るる中。に物たるを

禮記に曰く。古之君子必佩玉。而

○禮記

○禮記

徵角と右に。趨

曰古之君子必佩玉。右徵角。左宮羽。

肆夏と以て。周

趨以采。齊行以肆夏。周旋中规。折還

旋規に中り。折

中。矩進則揖之。退則揚之。然後玉鏘

還。矩に中る。進

鳴也。故君子在車則聞鸞和之聲。行

揚然して後。玉

則鳴佩玉。是以非辟之心。無自入也。

鏘して鳴。故。玉

古昔の君子ハ玉佩を玉と貫きて腰に佩し。徳

君子車に在。則

と玉に比して。その聲と愛する。宮羽徵角商の五音あり

以て非辟之心

道と趨にその心を取。肆夏は重なり。依て道と

也。也。

ゆく。行にみり。かき。為に。心を取。進。抑。揚。仰。下。周。旋。も。入

也。也。

折還も規。矩ありて。序次と。玉の鏘鳴。を。聞

也。也。

具。其。行。佩玉の音を。鳴。非辟の心。乃

也。也。

射義曰。射者進退周還

者進退周還。必

必中禮。内志正。外體直。然後持弓矢

志正。外體直

審固持弓矢。審固。然後可以言中。此

審固持弓矢

可以觀德行矣。

禮記に射藝の義と。審固

禮記に射藝の義と。審固。然後可以言中。此

後以中と詩
此以て德行と
觀乎矣

右威儀之則と明
にす

士冠禮始加の
祝に曰。令月吉
日始て元服と
加。爾の幼志と
棄。爾の成徳に
順。壽考維祺
ひ。爾の景福と
介。も。再加に
曰く。士月令辰

乃ち爾の服と
敬と淑爾の徳
と慎と眉壽萬
年永胡福と
受も。三加に曰
歳之正と以し。
月之令と以し。
威爾の服と加
兄弟具に在て
以て厥徳と成
黄耆無疆。天
之慶と受ん

内にたくり入志意まで禮に中て正直るまでとて始初
堂と舟降てあつて進すとの退る相手の人とたか
讓儀て場所の周還とさうらうらう然後に引矢と
持ての術も審固るるべかり又中と又巧なる地につる
行状道に合すると味りてさうらう

右明威儀之則人の威儀とすま

士冠禮始加祝曰令月吉日始加元

服棄爾幼志順爾成徳壽考維祺介

爾景福再加曰吉月令辰乃申爾服

敬爾威儀淑慎爾徳眉壽萬年永受

胡福三加曰以歳之正以月之令歳

加爾服兄弟具在以成厥徳黄耆無

疆受天之慶諸士もその年三加りて元て

日の禮に三加りて冠儀の人祝して曰るその始の

辞左のとあり吉令月と曰と始て元にかりといふ

人ともりし徳に順ふべし。さうらう壽考すまも祺あり

て數かり福壽すましく介もさうらう再加の禮も

同例るり令の吉なりも威時刻なりさうらう加の禮に

申とさうらう果の行状と淑て徳の施すと慎と

命の毛なり。胡はけらうに大なる三加の禮に曰詩
なり。歳之正とさうらう。服之令の吉なり

道にあらく慈まん
〜〜とつらうり

右衣服之制と
明す

右明衣服之制

右ハ人々高下老幼の別ありし
衣服の制法あるべしと明す

曲禮に曰く。食と
共に飽む。飯

曲禮曰。共食不飽。共飯不澤手。母搏

澤不。飯と搏

飯。母放飯。母流歎。母咤食。母齧骨。母

と共かて手と

反魚肉。母投與狗骨。母固獲。母揚飯。

母れ。放飯する

飯黍。母以箸。母嚶羹。母絮羹。母刺齒。

母れ。宅食する

母歎醢。共共に食物の座に列て飽むらると云ふは飯と

母れ。骨と齧

とらり。飯と搏轉又ハ放蕩に食するはカウツバ又流歎

と反く。母れ。狗に
骨と投與

に入るハ蓋につまり食すは元のつらりハ反さる

飯黍箸と以

之と用らり。食事の〜〜銅太ハ〜〜水ハ〜〜

母れ。絮羹

飯と〜揚て熱とさめん〜〜茶の飯ハ箸の食す

母れ。齒と

不自由ヤり。匙〜〜箸ハ箸の食す

客絮羹主人

○客絮羹主人辭不能烹

人烹之能不

客歎醢主人辭以簞濡肉齒決乾肉

辭と客醢と歎

不齒決。母喂炙。

すれ主人辭す

不能〜〜客〜〜醢〜〜手〜〜具味

簞と以す。濡肉ハ
齒決す。乾肉ハ齒

少儀曰。待

決す。炙と聚す

於君子。則先飯而後已。母放飯。母

る。母れ

炙〜〜乾肉ハ手に決も〜

經典餘節

小學卷之三

十三

無に牛ハ殺し殺しを仁と物に及ぶと云ふ。大夫ハ羊。士ハ犬。豕いづれも故や。殺さざる。君子の庖厨場と遠と云ふ。生々として死するに忍ぶるが故や。凡て氣血

樂記に曰く。豕と黍酒と爲る以て禍と爲る非ざる也。而して獄訟益繁ハ罪ハ罪也。酒之流生禍也。

○樂記曰。黍豕爲酒非以爲禍也。而獄訟益繁則酒之流生禍也。

酒と爲る。豕と黍や。やまの酒。老人とや。又ハ人のや。酒の爲る。禍災と云ふ。然るに争逆と仕出。獄訟益繁。酒の流生禍也。

○是故先王因爲酒禮。一獻之禮。賓主百拜。終日飲酒而不得醉焉。此先王之所以備酒禍也。

先王因爲酒禮。一獻之禮。賓主百拜。終日飲酒而不得醉焉。此先王之所以備酒禍也。

終日飲酒而不得醉焉。此先王之所以備酒禍也。

以備酒禍也。

亭主と拜するありて。孟憲の數。人の多。少。より百。一の拜禮あり。今禮と重して酒と飲る。終日。座席にありて。酔て。亂る。先王深く思惟。酒の禍災と云ふ。備る所以なり。

○孟子曰。飲食之人。則人賤之矣。爲其養小以失大也。

今時人として。口とや。心掛る。名づけ。飲食の人と賤む。子細小。大と失ふが爲也。

其養小以失大也。

今時人として。口とや。心掛る。名づけ。飲食の人と賤む。子細小。大と失ふが爲也。

右明飲食之節。

右明飲食之節。

右明飲食之節。

右明飲食之節。

右明飲食之節。

小學卷之三終

小學卷之三終

小學卷之三終

十五

讀法

小學卷之四

誓古第四

孟子性善と道言必ず堯舜と稱す

其言に曰く舜法と天下に爲後世に傳可我猶郷人爲と免れ天也是則ち憂可也之と憂如何舜の如くせん而已

經典餘節

小學卷之四

誓古第四

朱子に教明倫敬身の事と述すの辭は古昔の跡と誓考の已に聖賢の行狀の餘を録て右立教等の虚言の行狀を明くす

孟子道性善言必稱堯舜

人々の生るるを陰陽の正き氣と受て性なり質と名づけんが誰れも徳と尊と善なるものにて悪るるものも徳と尊と道に志ざんし厚く堯舜の場も至るなり其言

曰舜爲法於天下可傳於後世我猶未免爲郷人也是則可憂也憂之如何如舜而已矣

小學卷之四

依て孟子の言も舜帝への

於於矣助字

往行と撫て前
言と實ふし此
篇と述て讀者
に興起する所
有使

太任の文王之母
中女也王季
娶て以て妃と
為

匹夫より出て
遊傳するも
なり。實に取憂
致すのの
委細孟子の書に
篇使讀者有所興起
以て我今日人の為に往昔の徳者の行狀を
條々と採撫各々を
信の證據と此篇に述し
興起て道に進むるを願ふれ

太任文王之母摯任氏之中女也王

季娶以為妃

子の娶ての教との證據と擧
この例ととるして文王の御父王季といふ

太任之性端一誠莊惟徳之行及其

娠文王

中に得る義理とその行施たすに依て文王と
娠する一時も身の舉動左の如くにあつて

目不視惡色

物聲 口不出敖言 生文王而

明聖太任教之以一而識百卒為周

宗君子謂太任為能胎教

して明徳の聖人なり。太任の教を以て一と聽
て百と識するに周の御代の宗源と為たす

大任の性の端
一誠莊かて惟
徳之行ふ其文
王と娠に及で
目に惡色を視
不耳に淫聲を
聽不口に敖言を
出さず文王を
生て而して明聖
なり大任を教
るに以て而
百と識するに周
の宗と為る君子

大任の性の端一誠莊惟徳之行及其
娠文王
中に得る義理とその行施たすに依て文王と
娠する一時も身の舉動左の如くにあつて
目不視惡色
物聲 口不出敖言 生文王而
明聖太任教之以一而識百卒為周
宗君子謂太任為能胎教
して明徳の聖人なり。太任の教を以て一と聽
て百と識するに周の御代の宗源と為たす

謂大任能胎教
と為す

孟子曰之母其舍墓
に近し孟子之少也
嬉戲墓間之事
為て踊躍築埋也

孟子曰此子
居所以非也
也乃去市
舍其嬉戲賈
術と為す

孟子曰此子
居所以非也
也乃去市
舍其嬉戲賈
術と為す

君子も許し多て大任の
胎内の教くつひし人なりとを

○孟子之母其舍近墓
孟子の母公の墓に近し

孟子之少也嬉戲為墓間之事踊躍
孟子の少也嬉戲墓の間に事し踊躍

築埋
孟少の嬉戲遊も墓祭の事と云これ
刺身と踊躍てりや土と埋て石塔に築

孟子曰此非所以居子也乃去
孟子曰此非所以居子也乃去

舍市其嬉戲為賈術
母公の思や子と居る
所なくんて市中の舍

也乃徙舍學宮之旁其嬉戲乃設俎
也乃徙舍學宮の傍其嬉戲乃設俎

豆揖讓進退
母公又も此所も宜くばて學宮の
旁徙し此に諸禮に用る俎豆

孟子曰此真可以居子
孟子曰此真に子と居る

矣遂居之
母公悦喜て此真に子と居る

時問東家殺猪何為母曰欲啖汝
幼少にやせし時東家に猪を料理ありしと
何に為しと問母公答て汝に啖しむるなりと

既而悔曰吾聞古有胎教今
既に悔て而して悔て

適有知而欺之不信乃買猪
適に有る知れし之を不信

肉以食之
母公や右の如く答るるに

既長就學遂成大儒
既に長じて學に就遂に大儒と成

既長就學遂成大儒
既に長じて學に就遂に大儒と成

既長就學遂成大儒
既に長じて學に就遂に大儒と成

既長就學遂成大儒
既に長じて學に就遂に大儒と成

そのうち 學校に就て 勢のいふ年長
あふにまゝなつて 遂に大儒とかりたまふ

孔子嘗て獨立
鯉趨て而して庭
と過

○孔子嘗獨立鯉趨而過庭

聖人獨立の時

御子の名を鯉と申す。御子の名を足るや。小庭の
前と趨過す。貴人の前へさかす。あつたれり。

曰學詩

曰ハク詩と學より
乎對て曰未也
詩と學不ハ以て
言ハク無レ

乎對曰未也不學詩無以言

聖人聲をけ
りて詩經

鯉退て而して
詩と學。他日又

鯉退而學詩

退出ありて直に
詩經と學より

獨立。鯉趨て而して
庭と過曰禮と

又獨立鯉趨而過庭曰學禮乎對曰

未也。禮と學不ハ
以て。禮と學

未也。他日又禮と御たふあり

不學禮無以立

鯉退而學禮

鯉退而學禮 聖人の身や。上下尊卑の別。君臣
父子。親女の道。全く禮と學よりて

暗ものり。依て不知してハその身
立ぐ。一と一。鯉とち學よりて

孔子伯魚に謂て
曰汝周南召南

○孔子謂伯魚曰汝爲周南召南矣

南と爲より乎矣

乎 周南召南ハ詩經の始に在て。文王の御徳身より
天下に及まふ。と述より。人の心得り。第一義に

人として周南召南
と爲不ハ其猶正

人而不爲周南召南其猶正牆面而

立也。猶也與。猶
三度

立也與 道の正面に牆ありて。立はるまは。行つ
た。く。の。如く
ま。ま。と。ぞ

た。く。の。如く
ま。ま。と。ぞ

右立教

右立教

上篇の立教の
意を此如しとかり

虞舜父頑母嚚
象傲

虞舜父頑母嚚象傲

虞の舜帝ハ聖人。つらに
や。ごに御父母ハ頑嚚

克諧以孝。烝烝
乂不格。女

御象と申す
傲すかりとぞ

克諧以孝烝烝乂不格女

格不

萬章問曰舜往于田號泣于旻天

號泣于旻天何為其號泣也

孟子曰怨慕也我何為哉

萬章問曰舜往于田號泣于旻天

何為其號泣也

孟子曰怨慕也我何為哉

力耕田共為子職而已矣父母之不我

愛於我何哉

帝使九子

九男二女百官牛羊倉廩備以事舜

於畎畝之中

天下之士之就

者多帝將遷之

而將之焉

父母之順也

天下之士之悅

之也

不足好色人之

所欲

天下之士多就之者

帝將胥天下而遷之焉

不順於父母如窮人無所歸

而不足以解憂好色人之所欲

之二女而不足以解憂富人之所欲

天下之士之悅之也

不足好色人之所欲

之二女而不足以解憂富人之所欲

人の欲する所富天下と有て以て憂と解に足不貴ハ人之欲する所貴と天子と爲て以て憂と解に足不人之悦ぶ好色富貴以て憂と解に足者無惟父母に順て以て憂と解可而

人少則慕好色と知を則少女と慕妻子有則妻子と慕仕則君と慕君に得不則中に執す

大孝ハ身と終まて父母と慕五十而而慕者予大舜に於て之と見矣

楊子曰。父母に事て自足不と知者ハ其舜乎得而久之可不者ハ親に事るの謂也孝子ハ

富有天下而不足以解憂貴人之所

欲貴爲天子而不足以解憂人悦之

好色富貴無足以解憂者惟順於父

母可以解憂

人少則慕好色と知を則少女と慕妻子有則妻子と慕仕則君と慕君に得不則中に執す

慕父母知好色則慕少女有妻子則

慕妻子仕則慕君不得於君則執中

大孝終身慕父母五十而慕者

予於大舜見之矣

楊子曰事父母自知不足者其舜乎不可得而久者事親之謂也孝子

愛日

誠に親を久く事んと思ふを得てハ有りて人の壽命のまかりぬる依て孝心の

漢の大儒なり父母に事て

孝子ハ

予於大舜見之矣

大孝終身慕父母五十而慕者

予於大舜見之矣

楊子曰事父母自知不足者其舜乎不可得而久者事親之謂也孝子

愛日

誠に親を久く事んと思ふを得てハ有りて人の壽命のまかりぬる依て孝心の

漢の大儒なり父母に事て

孝子ハ

文王之世子為王季に朝する日

○文王之為世子朝於王季日三文王

鶏初鳴て而して

而衣服至於寢門之外問内豎御者

御者に問て曰く

曰今日安否何如内豎曰安文王乃

内豎曰安文王

喜及日中又至亦如之及莫又至亦

乃喜日中に及

如之鶏鳴して夜の未明より早く早朝に衣服

至て亦之の如

御に問て人に入て問て今日安否何如入て

其節に安せず

其有不安節則内

以て文王に告文

豎以告文王文王色憂行不能正履

履能不正王季膳に復て然して後に亦初に復

王季復膳然後亦復初節不安しつゝの初

食上必在視寒暖之節

食上必在視寒暖之

食下問膳宰に命

節食下問所膳命膳宰曰未有原應

日諾然して後

曰諾然後退

文王疾有武王

○文王有疾武王不說冠帶而養文

養文王一飯

王一飯亦一飯文王再飯亦再飯

亦再飯

疾にわかせし時御子武王冠を脱ぎ帯を解

亦再飯

で保養がされし文王一飯とありて食氣を日に

武王もまた一飯とつゝ食し文王再飯されば又再飯しその様體とす

孔子の曰く武王周公其達孝なる者善

志善述人之事者也踐其位行其禮

奏其樂敬其所尊愛其所親事死如

事生事亡如事存孝之至也

存に事が如し孝之至也

親む所と愛し死に事さく生に事さく如く亡に事さく存に事が如し孝之至也

其尊む所と敬其親む所と愛し死に事さく生に事さく如く亡に事さく存に事が如し孝之至也

志善と述人との事者也踐其位行其禮

奏其樂敬其所尊愛其所親事死如事生事亡如事存孝之至也

存に事が如し孝之至也

親む所と愛し死に事さく生に事さく如く亡に事さく存に事が如し孝之至也

其尊む所と敬其親む所と愛し死に事さく生に事さく如く亡に事さく存に事が如し孝之至也

志善と述人との事者也踐其位行其禮

奏其樂敬其所尊愛其所親事死如事生事亡如事存孝之至也

存に事が如し孝之至也

親む所と愛し死に事さく生に事さく如く亡に事さく存に事が如し孝之至也

其尊む所と敬其親む所と愛し死に事さく生に事さく如く亡に事さく存に事が如し孝之至也

志善と述人との事者也踐其位行其禮

奏其樂敬其所尊愛其所親事死如事生事亡如事存孝之至也

存に事が如し孝之至也

孟子の曰く曾子曾皙と養ふ必し

文王に奉持する

屬して將に勝不

ん將如く之と

失はんと恐る如

能子よと謂可

將二度 於矣

淮南子曰周公之事文王也

行無事

事行無事

事行無事

事行無事

事行無事

子學子曰曾子養曾皙必有酒肉將

有奉持於文王洞洞屬屬如將不勝

如恐失之可謂能子矣

出口 周公の文王に事する

王の命とて心に畏つて衣服も身に勝

有奉持於文王洞洞屬屬如將不勝

如恐失之可謂能子矣

出口 周公の文王に事する

王の命とて心に畏つて衣服も身に勝

有奉持於文王洞洞屬屬如將不勝

如恐失之可謂能子矣

出口 周公の文王に事する

王の命とて心に畏つて衣服も身に勝

酒肉有將に徹せん將必と與う所と請餘有と問必す有と日將二度

曾子死曾元曾子と養ふ必徹酒肉有將に所と請不餘有と問亡と日將に以て復進んと將將復進也

曾子の若ハ則ら志と養と謂可也親に事ハ曾子の若者可也

孔子曰ハク孝哉閔子騫人其父母昆弟之言と問セ不於

老萊子二親に孝奉す行年七十て眼兒の戯れと作身に五色斑爛之衣と著嘗て水と取て堂に上詳跌仆して地に臥て小兒の啼と爲雛と親

徹必請所與問有餘必曰有曾子父の曾子とヤ

徹酒肉とそふふして食かりて之と下徹とんとするた。又手とつちて餘餼の品ありて夫と誰かに與明とせと請問といひかり。又曾子と問にその外に何々の餘ありてつちて有と云ふ

曾子死曾元養曾子必有酒肉將徹不請所與問有餘曰亡矣將以復進也

曾子則可謂養志也事親若曾子者此所謂養口體者也若

可也孟子批判一。孟子曾元のつちて口と體とヤ。また曾子の孝ハ父の志意とヤ。

孔子曰孝哉閔子騫人其父母昆弟之言閔子騫の孝ハ常に入母衆中稱一。騫と云ふ。

老萊子孝奉二親行年七十作嬰兒戲身著五色斑爛之衣嘗取水上

堂詐跌仆臥地爲小兒啼弄雛於親

側欲親之喜楚の國の人に老萊子と云ふ人至て孝心なり。二親に事孝奉一。親子と云ふ。

の側に弄ぶ親の喜ぶと欲する

○

樂正子春堂而下而傷其足

數月不出猶憂色有門弟子曰

夫子之足瘳數月不出猶憂色有門弟子曰

○

樂正子春日善爾之間の如し

吾諸と曾子に聞・曾子諸と夫子に聞曰

天之

長壽して七十の年まで父母ありたる之と慰愛して身に五色の斑爛の衣服と著りけるも又ある日水と手に持て弄為て跌仆して小兒の啼き又鳥の雛と持弄蹴ける何れも而親の喜悅多けんものと云ふに

○樂正子春下堂而傷其足數月不出猶有憂色門弟子曰夫子之足瘳

矣數月不出猶有憂色何也

樂正子春日善爾之間の如し吾諸と曾子に聞・曾子諸と夫子に聞曰天之

生地之所養惟人爲大父母全而生之

之子全而歸之可謂孝矣

且我師の曾子より聞く夫子ハ孔子有り曾子の言に天地の間に生養のありて人を大

不虧其體不辱其身可謂全矣故君子頃歩而不敢忘孝也

今予忘孝之道予是と以て憂色有也

○

○

○

○

○

○

○

○

○

是故道而不徑舟而不游不敢以先
父母之遺體行殆一出言而不敢忘
行不... 出而... 惡言... 其身... 其親... 孝... 語可

伯俞過有其母之泣其母曰他日...

未嘗泣今泣何也 未嘗泣今泣何也 未嘗泣今泣何也

對曰俞得罪而得... 痛今母之力不能... 是也

是故道而不徑舟而不游不敢以先
父母之遺體行殆一出言而不敢忘
父母是故惡言不出於口忿言不反
於身不辱其身不羞其親可謂孝矣

伯俞有過其母答之泣其母曰他日答子未嘗泣今泣何也

對曰俞得罪答常痛今母之力不能使痛是以泣

見於色深受其罪使可哀憐上也父母怒之不作於意見於色下也

學不而居乎
之門に居ん乎
未(未)未(未)未(未)未(未)
少連大連善喪

三年未嘗て
齒と見さ未君
子以て難と為
未(未)未(未)未(未)未(未)
顏丁善喪に居
始て一死するに皇

高子臯之親
之喪と執泣血
三年未嘗て
齒と見さ未君
子以て難と為
未(未)未(未)未(未)未(未)

皇馬とて求
有て而と得弗
有て而と得弗
有て而と得弗

既小殯するに望
馬とて從ふと有
而及弗が如し
而及弗が如し

既に葬るふ慨然
とて其及に及
不而息が如し
不而息が如し

曾子疾有門弟
子と居て曰く
予が足と啓予が
手と啓け

曾子疾有門弟
子と居て曰く
予が足と啓予が
手と啓け

○少連大連善居喪三日不怠三月

不解期悲哀二年憂東夷之子也

邀少連として兄弟の孝行に親の喪中と勤する人
なり。死して三日といふこと、殯するより水も咽ひさ
ずして勤するよりなり。三月の類の集會の時なり。哭哀
しとの禮解念なく。祥期まゝの中、悲哀にたぐりし。又
三年の終の喪に至ると憂の色のみへる元來
東の夷の人なり。かやうに勤する人なり。

○高子臯之執親之喪也泣血三年

未嘗見齒君子以為難

○顏丁善居喪始死皇皇馬如有求

而弗得

如有從而弗及

既殯望望焉

既葬慨然如不及其反而

息

曾子有疾召門弟子曰啓予足啓

予手

曾子疾有門弟

子と居て曰く

予が足と啓予が

手と啓け

曾子疾有門弟

子と居て曰く

予が足と啓予が

手と啓け

詩に云く戰戰兢兢如臨深淵如履薄水

而して今めて而して後に吾免ると知夫小子

箕子者紂親戚也紂始為象箸箕子歎曰彼為象箸必為玉杯為玉杯則必思遠方珍怪之物而御之而世之御人與馬宮室之漸此自始不可振也

詩云戰戰兢兢如臨深淵

淵如履薄水深き淵に臨み又薄き水に履て

而今而後吾知免夫思てその身と慎む

小子吾死して今日よりしてこれ其苦勞と免く

○箕子者紂親戚也紂始為象箸箕

子歎曰彼為象箸必為玉杯

則必思遠方珍怪之物而御之矣

馬宮室之漸自此始不可振也紂王無道暴虐

御之而世之御人與馬宮室之漸此自始不可振也

紂為滌汰箕子諫紂

不聽而囚之果して酒色滌汰と為り故に諫

人或曰可以去矣箕子曰為人臣諫

不聽而去是彰君之惡而自說於民

吾不忍為也乃被髮佯狂而為奴

遂隱而鼓琴以自悲故傳之曰箕子操

或人箕子に逃去べしと云ふ箕子答て曰く

今の世れ人の臣たるもの君と諫して立去り他人

傳て箕子操曰矣於

王子比干者亦紂之親戚也箕子諫聽而不

則曰君過有而死以爭不則百姓何

紂怒曰吾聞

聞聖人之心七竅有信諸有乎乃遂殺王子比干と殺

割て其心と視

微子曰父子有過子

主義と以て屬故に父過る子

三つ諫て聽不則ら隨之而號

義以て去可是に於て遂に行矣

孔子の曰ハク殷

に三仁有焉

五五ハ心に於て割つて視す其心を割つて見して殺すに遠く身と隱然と鼓て憤發して今今今此曲と傳へ

て箕子操王子比干者亦紂之親戚

見箕子諫不聽而爲奴則曰君過

而不以死爭則百姓何幸乃直言諫

紂比干と商王の子孫を見て奴と爲す姓萬民幸乃直言諫

直面て諫言をして紂怒曰吾聞

聖人之心有七竅信有諸乎乃遂殺

王子比干割視其心紂大怒て聖人ハ

聞りて遂に心割つて殺す微子曰父子有骨

肉而臣主以義屬故父有過子三諫

而不聽則隨而號之人臣三諫而不

聽則其義可以去矣於是遂行骨肉の

親と深くと諫て聽入らず號泣し父に隨從す三諫を

君臣ハ義重きを以て號泣す父に隨從す三諫を

孔子曰殷有三仁焉聖人稱し三人ハ仁と稱す

と言ふ仁ハ聖人重く許さる今ハ三人ハ

聖人に在て仁として即ち好生の德を以て生育すり

君ハ天下の與として存す君臣と愛さる道ハ

武王紂と伐伯夷叔齊馬と叩て而て諫左右之と知えんと欲そ太公曰く此義人也扶て而去山武王已に殷の亂と平けて天下周と宗とす而て伯夷叔齊之と取義周の粟と食て不首陽山に隱薇と採て而て之と食す遂に餓て而して死す

○武王伐紂伯夷叔齊叩馬而諫左右欲兵之太公曰此義人也扶而去之武王已平殷亂天下宗周而伯夷叔齊恥之義不食周粟隱於首陽山採薇而食之遂餓而死

武王の紂と討つて天下を取らんとすに應じ人心に隨順なり此時天下の民困苦に堪へず武王に推て世と救ふとと疆を以て已むとと得るは多かり然れどもその形臣として君と裁するとのづれえは伯夷叔齊二人馬と叩て諫るるふ左右のりれ兵と加んとする太公望もつて此の君臣の義と思ふ人なりとて扶てりそりて天下の人周の武王と宗と天子とを依て二人の心に恥て周の代の粟を食せずの義と立て首陽といふ山に於て薇と食し遂に餓て死けるなり

衛の靈公夫人與夜坐車聲轆轤と闕に至て而して止闕と過て復聲有と聞公夫人に問て曰く此誰と知夫人の曰く此蘧伯玉也公曰く何と以て之と知夫人の曰く妾聞禮に公門に下り路馬に式を敬と廣く所以也夫忠臣と孝子與ハ昭昭の爲に節と信不眞眞の

○衛靈公與夫人夜坐聞車聲轆轤至闕而止過闕復有聲

衛の君靈公の夫人の夜坐する車の聲の轆轤と闕の内に於て止まると聲の轆轤と 公問夫人曰知此爲誰夫人曰此蘧伯玉也

今來 公曰何以知之夫人曰妾聞禮下公門式路馬所以廣敬也夫忠臣與孝子不爲昭昭信節不爲眞眞信於事上此其賢大夫也仁而有智敬於事上此其

人必不以闇昧廢禮是以知之

何ゆゑに伯玉

知や夫人答のや。禮法に公の門を過るる事。路馬の前と云。式禮といふんより馬の行を君と敬する所以と廣く。實に忠のこゝろ。孝にこゝろ。眞の所を之行と。暗合心といふ。然に伯玉の知。仁と兼る賢人なり。今夕も闇場所なり。禮儀と廢人なり。公使人視之。果伯玉。是故に察するなり。

也。靈公人み視せ多くを果して伯玉と知りて路の

趙襄子殺智伯漆其頭以為飲器

晋の大夫各々分て。權と振一中。趙襄子といふ。同席智伯と恨ありて殺す。その頭に漆とめ。犬等の飲器。

智伯之臣豫讓欲為之報仇乃詐為

刑人

入襄子宮中塗廁左右欲殺之

後而此人欲為報仇真義士也吾謹

避之耳

於市其妻不識也其友識之為之泣

曰以子之才臣事趙孟必得近幸子

乃為所欲為顧不易邪何乃自苦如

為に行と暗ら
不・遽伯玉の衛
之賢大夫也仁
みて而之智君上に
事に敬す此
其人必闇昧
と以て禮を廢
不是以て之と
知人なり
して伯玉也

趙襄子智伯と
殺其頭に漆を
以て飲器を為す
智伯之臣豫讓
之が爲に仇と
報せん欲す

乃ら詐り刑人
と爲七首と挾
襄子宮中に
入て廁と塗左
右之と殺さんと
欲す襄子曰く
智伯死後無
而此人爲に
仇と報んと欲
す真の義士也
吾謹んで之
と避耳・讓又
身に漆して癩
と爲炭を啞
と爲市に行を
す其妻識不

其友之識之也
 為之泣曰子
 之才也必以趙
 孟之臣事必
 不近幸也得ん子
 乃為之欲す
 所と為る顧に身
 不邪何を
 能苦む此の如
 讓曰く實と未
 臣為而て之と
 我未是二心也
 吾此と為所
 者將に以て天下
 後世之人臣と為
 て而て二心と懷
 者と愧を將後
 又橋下に伏て襄
 子と殺れ欲す

此 癩病の如く・炭と吞て啜とかり・食とかり
 妻も見識がさるるがかり・朋友泣いてさるる子の才智とかり
 趙襄子の事臣とかりるが・極て近幸もかりるが・その時
 欲為るとかりるが・心疑ふが・讓曰く委實為る臣而
 何故かりるに身と苦らや
 求殺之是二心也吾所以為此者將
 以愧天下後世之為人臣而懷二心
 者也 答て曰く一は人の臣とかり・我實と委實と
 事らるるが・又之と殺るとするが・二心とかりるが
 △今吾うくるとるのへらに後う世も
 二心と懷れと愧らるるがかり
 後又伏於橋
 下欲殺襄子襄子殺之 橋の下
 下に伏れて餓ひ
 ちえ襄子つる
 之と殺らるる

襄子之と殺
 將二度於也於

王孫賈齊の問
 王に事王出走
 賈王之處と失
 其母曰く女
 朝に去て而て
 晚に來しと則
 う吾門に倚て而
 望女暮に出而
 還不入則し吾
 問倚て而て望女
 今王に事王出
 走女其處と知
 不女尚何ぞ帰
 王孫賈乃り市
 中に入て曰く
 淖齒齊國と亂

○王孫賈事齊閔王王出走賈失王
 之處 王孫賈といつるが齊の大夫の時燕の國より
 叛て王と害らるるが 其母曰く女朝去而
 晚來則吾倚門而望女暮出而不還
 則吾倚閭而望女今事王王出走女
 不知其處女尚何歸 常に他行するに朝出
 去て晚まに歸來れば我門に立倚て望居たり
 暮り出てくるが御の門や望待り親の
 子と思ふへくの如し君に事らるる 王孫賈乃
 躬とて王と思はるるが立歸ら何事ぞ
 入市中曰淖齒亂齊國殺閔王欲與

て閔王と殺せり我
與齒と誅を欲
する者ハ右と祖
市人之に從者
四百人與に淖
齒と誅して刺て
而之と殺

白季使て冀
過冀の使を
きて其妻之に
敬て相待する
之歸と居けり
諸と文公に言
曰く敬ハ徳之
聚也能敬す
徳有徳以

民と治君請之
臣聞門と出
賓の如し事と
兼て祭の如し
仁之則也

文公以下軍
の大夫と為
公父文伯之母
ハ季康子之從
祖叔母也

康子往門と闕
て而之與言
皆闕と踰不

經典餘帀

我誅齒者祖右
王孫曹取ら
は出て曰く
市人從之者四

百人與誅淖齒刺而殺之
散て市に在合
の四百人

○白季使過冀
冀の使を
白季其の君の
文公の

見冀缺其妻饁之敬相待如賓與
之歸と居けり
冀缺の給仕と
言諸文公

曰敬徳之聚也能敬必有徳徳以治
白季見て賢徳
言諸文公

民君請用之
文公に言
中にて身と持
人の敬すべ

出門如賓承事如祭
の句ハ臣に上
仁之

文公以下軍大夫
の大夫と為
文公聞召て師
下軍一

○公父文伯之母季康子之從祖叔母
公父氏に文伯
子の為る祖
俗に大夫叔母

康子往焉闕門而與之言皆不踰闕
季康子往て安否
仲尼聞

經典餘帀

一七

仲尼之と聞て以て男女と別之禮為於矣

衛の共姜者衛の世子共伯之妻共伯蚤死と共姜義と守也

父母奪而之と嫁せん欲ふ共姜許さず柏舟の詩と作死と以て自誓

蔡人の妻宋人之女也既に嫁

而して夫惡疾有其母將に之と改嫁んと將

女の日く夫之不幸ハ乃ち妾之不幸也奈何ぞ之と去ん人に適す之道一と終身不改不幸

之以爲別於男女之禮矣

聖人聞て男女別之禮を

○衛共姜者衛世子共伯之妻也共

伯蚤死共姜守義

父母欲奪而嫁之共姜不

許作柏舟之詩以死自誓

○蔡人妻宋人之女也既嫁而夫有

惡疾其母將改嫁之

宋の國に女あり蔡の國乃人小妻あり

嫁して後その夫癩癩と云ふは父の父母を女曰く奪取て改め外へ嫁せんとす

夫之不幸乃妾之不幸也奈何去之

適人之道一與之醮終身不改不幸

遇惡疾彼無大故又不遣妾何以得

去終不聽

女曰く夫の不幸ハ是吾不幸也彼大故無大故又遣妾何と以て去と得ん終に聽不

○萬章問曰象日以殺舜爲事立爲

象曰に舜と殺す

天子と為りて

何ぞ孟子の

也或之と封す

放し仁人之弟

に於ける怒と載

不之と親愛す

馬也馬也馬

伯夷叔齊の

孤竹の君之二

子也父叔齊

と立んと欲す

父卒するに及

叔齊伯夷に讓

伯夷の曰く父の

命也遂に逃去

叔齊も亦肯て立

不而して之を逃

人其中子と立

天子則放之何也

萬章問るの辭の象

封之也或曰放焉

藏怒焉不宿怨焉

親愛之而已矣

孟子曰

伯夷叔齊孤竹君之二子也

父欲

立叔齊

夷伯夷曰父命也遂逃去

叔齊亦不肯立而

逃之國人立其中子

虞芮之君相與爭田久而不平

乃相謂曰西伯仁人

也盍往質焉乃相與朝周

入其境則耕者

讓畔行者讓路入其邑男女異路斑

駟者

其境に入らば則ち

孟子曰

伯夷叔齊の

父の命也

遂に逃去

叔齊も亦肯て

立不而して之を

逃人其中子と

立

夷伯夷の曰く

父の命也

遂に逃去

叔齊も亦肯て

立不而して之を

逃人其中子と

立

夷伯夷の曰く

父の命也

遂に逃去

叔齊も亦肯て

入ハハ女路と異
提挈セ不其朝
爲と讓大夫ハ
卿爲と讓

二國之君感て
相謂て曰く我
等小人以て君
子之庭と履可
く不其争所の田
を以て問田爲
而て退天下聞
て而て之に歸す
者四十餘國

白者不提挈入其朝士讓爲大夫大

夫讓爲卿 周の境に至りて文王の徳に萬民化せり

夫と争ひて提挈せしむるが如く左と右の那と正し髪並白

の人の重き荷物と争ひて提挈せしむるが如く朝廷に

至らば互に立身と争ひて諸士の衆中我ハ大夫と

なるの器量なりといひ大夫ハ國卿とせしむる争退とせしむる

二國之君感而相謂曰我等小人不

可以履君子之庭乃相讓以其所争

田爲問田而退 虞其の君大に感て誠に我等

十餘國 歸服して國凡四十に及ぶ

曾子曰以能問於不能以多問於

寡有若無實若虛犯而不校昔者吾

友嘗從事於斯矣 我義理と深辨得て能

上と問たぐひ多事にうりし身を寡き人に問たぐひ

已知く有るも無きごとく内不實なりとも虚さごと

く人より我と犯し去るも夫ととりあひ心より

校しやまきいそ人の肝要なりとせしむる人の心

昔者曾子の友に斯を事し行ひ

孔子曰晏平仲善與人交久而敬

之 凡て人のつとまり始に厚く終に薄く新なるに

仲とていへる人し交接の道と軌とれし心

久しくたふさざる人より敬みと盡しけり

曾子曰く能と
以て不能に問
多と以て寡ま
問有るも無き若
實と虚さ若犯
て而て校不昔者
吾友嘗て事に
斯に従

孔子の曰く晏
平仲善人與
交久而而
て之と敬す

聖人依てこれと稱したる

右明倫

右明倫

常ふまじりし五の倫なりとの義を明りぬ

孟子曰伯夷目不視惡色耳不聽惡

聲伯夷の生質清しと云ふ人をも邪惡ま

子游爲武城宰子游の爲る武城の宰

子曰女得人焉爾子游の御門人子游武城といふ邑の宰となり

曰有澹臺民と治上に立ちし賢徳ある人と

滅明者行不由徑非公事未嘗至於

偃之室也子游の菴に近頃澹臺名の滅明と

孟子の曰く伯夷目に惡色と

視不耳に惡聲と聽不

子游武城の宰

と爲る子曰く女

人と得たり乎

焉爾

澹臺滅明

徑に由不八事に非れ未嘗て偃之室に至未

と好ま依て歩行も徑よりいひゆるさず。且公用の外に詭謀をなして私一の室に至り申さぬなり。是を以てこの賢徳とく知り知れぬぞ。偃は子游の菴なり。

高柴自見孔子足不履影啓螿不

殺方長不折高柴字子羔。始めて聖人に謁見

衛輒之難出而門閉或曰此有徑子

羔曰吾聞之君子不徑曰此有竇子

羔曰吾聞之君子不竇有間使者至

門啓而出衛の公子名輒と云ふ不孝にて

父と爭論戰鬪の難ありとの時子

高柴孔子に見

自足影と

履不啓螿殺

不方長折不

衛輒之難に出

と而門閉

或曰此に

徑有子羔曰

五之と聞君子

ハ徑不曰此

に竇有子羔曰

五之と聞君子

五之と聞君子

ハ徑不曰此

に竇有子羔曰

五之と聞君子

ハ徑不曰此

に竇有子羔曰

衛輒之難出

と而門閉

或曰此に

徑有子羔曰

五之と聞君子

ハ徑不曰此

に竇有子羔曰

五之と聞君子

廿三

子ハ實よりセ付。門啓て而して出

羔門に開てられたる。或人申しける。子羔答けり。君子たる者ハ正と道より出べし。徑ハ中へべし。又或人告て。垣の實ありと。子ハ曰。子羔又始の。おとくに答へ。問ありて使者きり。タレハ門と啓り。依て門より出り。

南容白圭と三復す。孔子其

○南容二復白圭孔子以其兄之子

妻之。動トク。常ニ詩經の白圭の詩と三復

て。その詩の詞は。いふ上品なる白圭の。たゞ。玷損より。又補爲て。元の如に致べし。言の。つら。其後。聖人。兄子と以て妻を。その。なり。其後。聖人。兄子と以て妻を。その。なり。

○子路無宿諾。御門人子路ハ身ノ行狀と

ひ。と。聞。果。行。依。て。人。然。諾。一。日。も。其。宿。と。る。

孔子曰。衣敝緼袍與。衣狐貉者立

而不耻者。其由也與。子路の氣質。義。に。上。の。事。に。心。耻。依。て。人。狐。貉。と。着。我。身。の。敝。緼。袍。衣。と。着。與。に。立。を。耻。と。す。

○鄭子臧出奔宋好聚鵠冠鄭伯聞

而惡之使盜殺之。鄭の君の子。子臧。罪。を。得。て。宋。の。國。に。出。奔。す。鄭。伯。は。之。を。惡。む。故。に。盜。を。遣。は。し。て。殺。す。

○鄭子臧出奔宋好聚鵠冠鄭伯聞

而惡之使盜殺之。鄭の君の子。子臧。罪。を。得。て。宋。の。國。に。出。奔。す。鄭。伯。は。之。を。惡。む。故。に。盜。を。遣。は。し。て。殺。す。

○君子曰服之不

衷身之災也詩曰彼其之子不稱其

衣也詩曰彼其之子不稱其

孔子曰。衣敝緼袍與。衣狐貉者立。而不耻者。其由也與。

鄭の子臧出奔宋。好聚鵠冠。鄭伯聞之。而惡之。使盜殺之。

君子曰。服之不衷。身之災也。詩曰。彼其之子。不稱其衣也。詩曰。彼其之子。不稱其衣也。

彼其之子。不稱其衣也。

服に稱不子臧之服稱不夫也

服子臧之服不稱也夫

君子の之と評して曰く臧て衣服の

衷正くぬの身の災禍なり詩經の詞も彼に子ありその徳なくして美美しき衣服と奢する事ハ相稱ぬかりありけるが誠にしてありたる

○公父文伯退朝朝其母其母方績

文伯曰以歎之家而主猶績乎

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

公父文伯退朝其母方績

沃土之民不材

淫也

瘠土

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

沃土之民不材

淫也

瘠土

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

沃土之民不材

淫也

瘠土

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

沃土之民不材

淫也

瘠土

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

沃土之民不材

淫也

瘠土

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

生

食一瓢の飲陋
巷に在る人其憂
に堪不圓其樂と
改め不賢なる哉
也也也

右敬身

衛の莊公の赤月の
東宮得臣之妹
と娶莊姜と曰
美ふ而子無子
其娣戴為桓公
と生莊姜以て
已子と為公子
州吁の嬖人之子

也寵有り而兵
好公禁セ弗莊
姜之と惡

石碯諫て曰臣
聞子と愛する之
と教ふ義方と
以て邪に納弗
驕奢淫泆自らて
邪まざる所也四
の首之來ハ寵祿
過也

經典餘師

在陋巷。人不堪其憂。面不改其樂。
賢哉回也。
顏淵名回と云。柳門人第一なり。飯一
盛ソク。簞の器一つ飲美といふ。飄々器
一つソク陋巷にすまひ居りて其の貧く乏しく
多かり。然レテ人ノ願望なきを欲心いでやす
く人心憂ぐるみせざる顏子。天命に安ト義理と樂
操節と改むるなり。誠に大賢の徳と云ふなり。稱あ

右敬身

衛莊公娶于齊東宮得臣之妹曰莊
姜美而無子
衛の君莊公の妻莊姜ハ齊の
美麗なり。其娣戴嬖生桓公莊姜以て
已子と為公子州吁者戴嬖の生
公子州吁嬖人居り 公子州吁嬖
人之子也。有寵而好兵。公弗禁。莊姜
惡之。
同ト云。公子州吁といつる桓公の弟也。嬖人の
子なり。殊に莊公の寵愛するに常に矢道と好
け。よろしく弗禁ト多かり。其の惡しき心は惡
莊姜ハ賢女とて。嬖人に空あらん。慮てや

石碯諫曰臣聞愛子教之以義方弗
納於邪驕奢淫泆所自邪也四者之
來寵祿過也
大夫石碯ハ賢者なり。諫て曰く。
小人の子と愛する愛の過りて嚴
故に今日信實に子と愛す。つゝ義理の方の
を教て邪惡驕傲奢淫泆の四と禁めてその心と
納し。右の四の病ハ多く夫寵而不驕驕
寵愛と偉祿との過り起る 夫寵而不驕驕
而能降降而不憾憾而能恥者鮮矣

而能降降而不憾憾而能恥者鮮矣

小學卷之四

七

且夫賤妨貴と
妨げ
少長と陵

遠親と間親
と間

小大に加へ
淫義と破

所謂六逆也
君ハ義に臣ハ行
兄愛弟敬

所謂六順也

順と去逆に效
禍いと速所以
也人に君する者
將に禍は是務
去と將而して
と速乃ら不可
さるく無ん乎

劉康公成
肅公晉侯に會
て秦と伐成子
賑と社に受て
敬也

劉子曰曰く吾
之と聞民天

今曰寵愛に逢ては心驕傲し、又ハ驕の心を
とくまうても早之と降し、つらみ妙なり、さて人より是
非をさしに我と降さ、きき事つらうも心に感ひ、
く又人の無體に逢て憾べ、あつても能氣と恥
やとあるは、且夫賤妨貴、身分卑下の、尊
の世に鮮なり、少陵長、年少の長者と陵が
に無禮なる類へ

遠間親、他人より親しく、兄弟の疏の
新聞舊

新、きくハ睦なく、舊くハ疏なる、小加大、
ちやく不實と生るるなり、大なるものハ、
加ふるなり、淫破義、道にそむひ、
所謂六逆也、道に逆なり、君義臣行、
命、令らる義理にそむひ、兄愛弟敬、
敬、愛するふ、因て

所謂六逆也、道に逆なり、君義臣行、
命、令らる義理にそむひ、兄愛弟敬、
敬、愛するふ、因て

所謂六逆也、道に逆なり、君義臣行、
命、令らる義理にそむひ、兄愛弟敬、
敬、愛するふ、因て

所謂六逆也、道に逆なり、君義臣行、
命、令らる義理にそむひ、兄愛弟敬、
敬、愛するふ、因て

所謂六順也、順道に去、去順效、
自然に愛敬、所謂六順也、順道に去、
去順效

逆所以速禍也、若人者將禍是務去、
而速之無乃不可乎、人に君するもの、
務て禍災と去る

而速之無乃不可乎、人に君するもの、
務て禍災と去る

劉康公成、肅公會、晉侯伐秦、成子
受賑于社不敬、晉の侯、薦公ら、れ時、秦の國、
加、執あり、成、公、出陣、の例、とて、社、の、祭、と
社ハ土地の神なり、張氣と、劉子曰、吾聞之、
民受天地之中、以生、所謂命也、是以

劉康公成、肅公會、晉侯伐秦、成子
受賑于社不敬、晉の侯、薦公ら、れ時、秦の國、
加、執あり、成、公、出陣、の例、とて、社、の、祭、と

受賑于社不敬、晉の侯、薦公ら、れ時、秦の國、
加、執あり、成、公、出陣、の例、とて、社、の、祭、と

劉子曰、吾聞之、民受天地之中、以生、所謂命也、
是以

劉子曰、吾聞之、民受天地之中、以生、所謂命也、
是以

民受天地之中、以生、所謂命也、
是以

地之中と受て以て生ず所謂命也是と以て動作禮義威儀之則有て以て命と定也

能者養之と養て以て福能者養之と養て以て福不能者取是故君子禮と勤小人加と盡と禮と勤と敬と致に如莫加と盡は篤と敦とに如莫敬

神と養う在篤ハ業と守に在

國之大事在祀我與に在祀膳と執る有戎に脈と受く有神之大節也

今成子惰其命と棄其及ら不ん乎矣

衛侯楚に在北宮文子令尹圍

有動作禮義威儀之則以定命也

世の人民尊卑なりて皆是天地陰陽の中き義と以て生ずたりその生きざるも生たつて皆凶禍禍をまらる皆是と命とつらなり人の心た備るるは性

能者養之以福不能者敗

以取禍夫故に禮義と守て言行と慎と威儀と依て吉みて福幸あるは是なり是なり者

是故君子勤禮小人盡力勤禮莫如致敬盡力

莫如敦篤敬在養神篤在守業

上に立君子は勤ハ禮なり禮ハ敬なり第一とて敬る神明に奉養ハ天職とするはなり是小人とまて下にふるは勤ハ力と盡とせたり故と盡ハ敦篤とて律義いづんぞ守て專一産業とつら守らるる

國之大事在祀與我祀有執膳我有

受脈神之節也國の大事ハ神脈と祀と

宗廟神明と祭祀ハ供の膳と執て大夫各々

今成子惰棄其命

矣其不反乎儀なり成子心怠惰て禮と棄て

好ゆき道理やうと果して

衛侯在楚北宮文子見令尹圍之

之威儀と見て
衛侯に言ひ曰く
令尹其將に免
之不んと將詩に
云く威儀と敬
慎を維民之則
則と無民の則ら
不所を以て民
之上に在る終
可ら不
將三度於焉

威儀言於衛侯曰令尹其將不免詩
云敬慎威儀維民之則令尹無威儀
民無則焉民所不則以在民之上不
可以終衛侯の楚の國に適する時その大夫
とて若の威儀を言ひて侯に言ひ終る禍
難と免るを態相あり詩經の詞の上に立の威儀
と敬慎て萬民の則とするべしありふるに令尹
高官に居る威儀なり民の法則となる身行
事なく命と保の道理にあらず
公曰善哉何謂
威儀衛侯の詞と善む
對曰有威而可
畏謂之威有義而可象謂之儀對曰
畏謂之威有義而可象謂之儀對曰

君に君之威儀
有る其臣畏て而
て之と愛則て而
て之に象故に能
其國家と有て令
聞世に長ず

君有君之
威儀其臣畏而愛之則而象之故能
有其國家令聞長世君に君たる威儀あり
臣下畏つてその徳
と愛かり依てその威儀と則として象するは
是故に國家に久しく有るは其徳に長ず

臣ハ臣之威儀
有る其下畏
而して之と愛す故
に能其官職と
守其族と保家
と宣す
是順以下皆是
の如是と以て
上下能相固
也

臣有臣之威儀其下畏而愛之故能
守其官職保族宜家臣ハ臣たる威儀あり
君と守護し君の威と光輝んことを故にその
下に在るものも又畏んで愛するは是故に
能官職と保し守て一族一順是以下皆如
家に入るを宣す
是是以上下能相固也是に順して父子
兄弟朋友の道

衛詩に曰く威儀棣々（きぎい）より選（せん）可（か）く不（ふ）言（ごん）より（し）君臣上下（きんしんじやうじやう）父子兄弟（ふじやう）内外大小（ないがいだいせう）皆（みな）威儀（きぎい）有（あ）也（なり）

周詩に曰く朋友（ゆうゆう）の擯（へん）まらぬ故（ゆゑ）に君子（くんし）の威儀（きぎい）と以（も）て言（い）ふ（ふ）朋友（ゆうゆう）之道（のち）必ず相教訓（あひあづかる）するに威儀（きぎい）と以（も）て（も）也（なり）

故に君子

位（ゐ）に在（あ）りて（し）長可（なが）施令（せいきやう）可愛（あい）可（か）進退（しんたい）度（た）し可（か）周施（しうし）則（すなは）ち可（か）容止（ようし）可（か）觀（くわん）可（か）作事（さくじ）法（ぽう）も可（か）德行（とくぎやう）象（さう）も可（か）聲氣（せいき）樂（らく）む可（か）動作（どうさく）有（あ）言語（ごんご）章（ちやう）有（あ）て以（も）て其（その）下（した）に臨（りん）之（を）威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

位（ゐ）に在（あ）りて（し）長可（なが）施令（せいきやう）可愛（あい）可（か）進退（しんたい）度（た）し可（か）周施（しうし）則（すなは）ち可（か）容止（ようし）可（か）觀（くわん）可（か）作事（さくじ）法（ぽう）も可（か）德行（とくぎやう）象（さう）も可（か）聲氣（せいき）樂（らく）む可（か）動作（どうさく）有（あ）言語（ごんご）章（ちやう）有（あ）て以（も）て其（その）下（した）に臨（りん）之（を）威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

右通論

終身食言

衛詩に曰く威儀（きぎい）とつり（し）む（し）がゆ（ゆ）より上下（じやうじやう）一（いつ）和（わ）して堅固（けんこ）なり（なり）と選（せん）ば可（か）く（なり）衛詩に曰く

棣（き）々（き）不可（いか）選（せん）也（なり）言（い）君臣（きんしん）上下（じやうじやう）父子兄弟（ふじやう）内外（ないがい）大小（だいせう）皆（みな）有（あ）威儀（きぎい）也（なり）詩經の衛風

弟（てい）内外（ないがい）大小（だいせう）皆（みな）有（あ）威儀（きぎい）也（なり）詩經の衛風

威儀（きぎい）棣々（きき）とて（し）く（し）善（ぜん）惡（あく）と選（せん）む（し）がゆ（ゆ）より

大小（だいせう）に皆（みな）威儀（きぎい）周詩に曰く朋友（ゆうゆう）攸（けい）攝（しやく）攝（しやく）以（も）て

威儀（きぎい）言（い）朋友（ゆうゆう）之道（のち）必（かならず）相教訓（あひあづかる）以（も）威儀（きぎい）

也（なり）又（また）周頌の詩に曰く朋友（ゆうゆう）いたる（し）ふ（し）身（み）とた（し）り（し）擯（へん）て

也（なり）仁義（にぎぎ）と輔（ほ）る（し）も（し）れ（し）擯（へん）た（し）る（し）も（し）れ（し）凡（たゞ）て威儀（きぎい）

事（こと）と以（も）てた（し）が（し）ふ（し）教訓（きやくん）こ（し）う（し）ら（し）ふ（し）の（し）ふ（し）ら（し）り（し）

故君子（こくんし）右（みぎ）の故（ゆゑ）ある（し）と以（も）て凡（たゞ）て高位（こうゐ）に在（あ）りて

在位（ざいゐ）長可（なが）施令（せいきやう）可愛（あい）可（か）進退（しんたい）度（た）し可（か）周施（しうし）則（すなは）ち可（か）容止（ようし）可（か）觀（くわん）可（か）作事（さくじ）法（ぽう）も可（か）德行（とくぎやう）象（さう）も可（か）聲氣（せいき）樂（らく）む可（か）動作（どうさく）有（あ）言語（ごんご）章（ちやう）有（あ）て以（も）て其（その）下（した）に臨（りん）之（を）威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

進退（しんたい）可（か）度（た）法（ぽう）度（た）に（し）る（し）周

旋可（せん）則（すなは）ち可（か）容止（ようし）可（か）觀（くわん）可（か）作事（さくじ）法（ぽう）も可（か）德行（とくぎやう）象（さう）も可（か）聲氣（せいき）樂（らく）む可（か）動作（どうさく）有（あ）言語（ごんご）章（ちやう）有（あ）て以（も）て其（その）下（した）に臨（りん）之（を）威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

作事（さくじ）可（か）法（ぽう）と（し）法（ぽう）と（し）た（し）が（し）ふ（し）德行（とくぎやう）可（か）象（さう）も可（か）聲氣（せいき）樂（らく）む可（か）動作（どうさく）有（あ）言語（ごんご）章（ちやう）有（あ）て以（も）て其（その）下（した）に臨（りん）之（を）威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

聲氣（せいき）可（か）樂（らく）聲（せい）氣（き）を（し）ん（し）こ（し）り（し）動作（どうさく）有（あ）言語（ごんご）章（ちやう）有（あ）て以（も）て其（その）下（した）に臨（りん）之（を）威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

有文（ゆうぶん）萬事（まんじ）大小（だいせう）の動作（どうさく）に表裏（へうり）言語（ごんご）有（あ）章（ちやう）有（あ）て以（も）て其（その）下（した）に臨（りん）之（を）威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

以臨（いりん）其下（そのした）謂之（い）有威儀（きぎい）有（あ）と謂（い）ふ

右通論

終身食言

七

